

主婦の就業と食物摂取の関連（第2報）

笹田陽子（盛岡大短大部）

【目的】第52回大会において栄養素等摂取と主婦の就業に関連のないこと、惣菜の利用頻度に違いがあることを報告した。今回は惣菜、レトルト食品、冷凍食品の利用と生活時間、栄養素等摂取の関連について分析した。

【方法】調査対象者は本学学生の母親で岩手県および近県に住む40～50歳代の女性109名。調査期間は平成12年7月～8月の連続する3日間。調査項目は食物摂取調査（記述および面接法）、生活状況調査。

【結果】調査対象者の年齢は 47.6 ± 3.60 歳、身長は 155.3 ± 4.81 cm、体重は 55.3 ± 6.77 kg、BMIは 22.8 ± 2.74 で、その就業率は65.1%（フルタイム42.2%、パートタイム22.9%）であった。栄養素等摂取量はエネルギー 1617 ± 277 kcal、たんぱく質 64.7 ± 10.4 g、脂質 49.5 ± 12.9 gで、カルシウム（ 444 ± 131 mg）、鉄（ 8.2 ± 1.8 mg）、食物繊維（ 12.8 ± 2.6 g）の不足は前回同様顕著であった。また、PFC比はP比16.2、F比27.0、C比56.6で、穀イネ比43.8%、動たん比49.8%で前回と比較し、P比、F比、動たん比は高く、穀イネ比は低かった。惣菜、冷凍食品の利用頻度は高いが、レトルト食品の利用は低く、買物は「毎日」「週4～5回」で45.0%、買物時間は 10.0 ± 7.7 分、交通手段は自家用車であった。また、冷凍食品の利用と食事の準備、生活時間の使い方などに関連は認められなかった。